

特別企画: 第 12 回大阪府下メインバンク調査

池田泉州、大阪信金など地域金融機関がコロナ融資で社数増加
～三井住友が 2 年ぶり首位返り咲き～

はじめに

日本銀行のマイナス金利政策による超低金利の長期化が響き、金融機関にとって厳しい経営環境が続いている。上場地銀の 2020 年 4-9 月期中間決算では、発表分のうち 6 割にあたる 49 行・グループの最終損益が減益・赤字となった。各金融機関ではこれまで、店舗統廃合や人員削減を積極的に推し進めたコスト圧縮や、フィンテックなど IT 化の推進、活動基盤の拡大に伴う越境融資など、攻防含めた生き残り策を続けてきた。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大という想定外の事態に直面するなか、融資先企業の業績悪化などから与信費用が増加するなど逆風が吹いている。

折しも、菅義偉首相が「地銀は多すぎる」と述べるなど、金融機関の再編圧力は再び高まっている。近畿では今年 1 月に大阪の第二地銀である大正銀行と徳島銀行が合併し、徳島大正銀行が誕生。地銀再編が進むなか、収益力向上とともに、地元での存在感、広域化、コンサルティング機能向上など生き残りのために独自色を打ち出した施策が求められている。

帝国データバンク大阪支社では、2020 年 10 月末時点の企業概要ファイル「COSMOS2」に収録されている大阪府下企業(104,822 社)がメインバンクと認識している金融機関について抽出し、集計した。なお、調査対象は全業種全法人で、個人経営も含む。同調査は 2019 年 12 月に続き 12 回目。

※ 本調査は「COSMOS2」に収録されている企業のデータであるため、各金融機関がメインとして取引している実数とは異なる。また、一企業に複数のメインがあるケースでは、企業が最上位として認識している金融機関を集計した

調査結果 (要旨)

1. 大阪府下メインバンクは「三井住友銀行」が 2 年ぶりに首位、前回首位の「三菱 UFJ 銀行」が 78 社差で 2 位。上位行が前回調査から社数を落とすなか、6 位「池田泉州銀行」、7 位「大阪信金」が 100 社以上増加させ、コロナ禍で存在感を見せた
2. 地域別では「三菱 UFJ 銀行」が 2 地区、「三井住友銀行」が 1 地区でトップ。大阪北地区は 4 年連続で「北おおさか信金」が首位。大阪南地区では「池田泉州銀行」が調査開始以来初めて地銀で地区 2 位に入った
3. 業種別では、「三井住友銀行」が 4 業種でトップ、「三菱 UFJ 銀行」は 3 業種でトップとなり、すべての業種でこの 2 行が上位を独占。「りそな銀行」が 4 業種で、「関西みらい銀行」は 2 業種、「大阪シティ信金」が 1 業種で 3 位となった

1. メガバンクは社数減、地銀・信金は社数で増加、コロナ対応が鮮明に

大阪府下のメインバンク企業数は、「三井住友銀行」が18,346社（前回比196社減）、構成比は17.5%（同0.2ポイント減）で社数、シェアともに減少したものの、2年ぶりに首位に返り咲いた。2位は「三菱UFJ銀行」の18,268社（同314社減）、構成比17.4%（同0.3ポイント減）。「みずほ銀行」は4,730社（同44社減）で8位となった。メガバンクは3行ともに社数、構成比をそれぞれ減少させる結果となった。

3位の「りそな銀行」は12,288社（同8社減）、構成比11.7%（横ばい）。「関西みらい銀行」は10,617社（同80社減、同0.1%ポイント減）で4位となった。上位4位までが社数を減らしたのに対し、6位の「池田泉州銀行」は5,569社（同138社増、同5.3%）で大幅増加、10位の「紀陽銀行」も26社増となった。信用金庫では、「大阪シティ信金」が5位で信金トップ。「大阪信金」は114社増で7位、「北おおさか信金」も41社増で9位。上位10行の顔ぶれは前回調査と変化がなかったものの、メガバンクや大手行が社数を落とすなか、地銀や信金がコロナ融資をきっかけに社数を伸ばし、地域金融機関の存在感を見せた。上位10行のシェアは83.6%で前回比0.4ポイント減。

順位	金融機関名	社数	構成比 (%)
1	三井住友	18,346	17.5%
2	三菱UFJ	18,268	17.4%
3	りそな	12,288	11.7%
4	関西みらい	10,617	10.1%
5	大阪シティ信金	6,731	6.4%
6	池田泉州	5,569	5.3%
7	大阪信金	4,917	4.7%
8	みずほ	4,730	4.5%
9	北おおさか信金	3,913	3.7%
10	紀陽	2,455	2.3%
11	尼崎信金	1,990	1.9%
12	京都	1,015	1.0%
13	永和信金	987	0.9%
14	枚方信金	695	0.7%
14	商工中金	695	0.7%
16	大阪商工信金	660	0.6%
17	南都	618	0.6%
18	京都信金	529	0.5%
19	徳島大正	450	0.4%
20	大阪厚生信金	440	0.4%
21	阿波	385	0.4%
22	ゆうちょ	280	0.3%
23	近畿産業信組	273	0.3%
24	のぞみ信組	255	0.2%
25	北陸	247	0.2%
25	みなと	247	0.2%
27	成協信組	173	0.2%
28	第三	162	0.2%
29	香川	140	0.1%
30	京都中央信金	128	0.1%
31	百十四	125	0.1%
32	大同信組	117	0.1%
33	滋賀	109	0.1%
34	四国	85	0.1%
35	伊予	81	0.1%
36	大阪協栄信組	79	0.1%
37	ミレ信組	63	0.1%

順位	金融機関名	社数	構成比 (%)
38	楽天	61	0.1%
39	ジャパンネット	59	0.1%
40	但馬	57	0.1%
41	大阪中河内農協	54	0.1%
42	三井住友信託	51	-
42	愛媛	51	-
42	きのくに信金	51	-
45	中国	44	-
46	北国	42	-
47	大阪南農協	34	-
47	日本政策金融公庫	34	-
49	山陰合同	31	-
49	名古屋	31	-
51	いずみの農協	30	-
52	大阪府医師信組	27	-
52	大阪泉州農協	27	-
54	福井	26	-
55	三菱UFJ信託	24	-
56	北河内農協	22	-
56	大阪市農協	22	-
58	広島	21	-
59	高知	19	-
60	十六	18	-
60	十八親和	17	-
61	播州信金	17	-
61	近畿労金	17	-
64	大垣共立	16	-
65	大阪北部農協	15	-
66	住信SBIネット	14	-
66	西日本シティ	14	-
66	SBJ	14	-
66	トマト	14	-
66	大阪府信連	14	-
66	グリーン大阪農協	14	-
72	静岡	13	-
73	百五	12	-

順位	金融機関名	社数	構成比 (%)
74	山口	11	-
	中京	11	-
	農林中金	11	-
	茨木市農協	11	-
78	福邦	10	-
	大阪東部農協	10	-
80	横浜	9	-
	大分	9	-
	高槻市農協	9	-
83	宮崎	8	-
	愛知	8	-
	奈良信金	8	-
	日新信金	8	-
88	全信組連	8	-
	鳥取	7	-
	福岡	7	-
	鹿児島	7	-
	兆豊国際商業	7	-
	東京スター	7	-
	堺市農協	7	-
	新生	6	-
94	ハナ	6	-
	印度	6	-
	富山第一	6	-
	信金中央金庫	6	-
	大和信金	6	-
	兵庫信金	6	-
	大阪貯蓄信組	6	-
	中央信組	6	-
	琉球	5	-
	103	あおぞら	5
北洋		5	-
神戸信金		5	-
労働金庫		5	-
日本政策投資		5	-
未詳	4,511	4.3%	

参考資料

前回メインバンク調査（2019年12月発表）

順位	金融機関名	社数	構成比 (%)	順位	金融機関名	社数	構成比 (%)	順位	金融機関名	社数	構成比 (%)
1	三菱UFJ	18,582	17.7%	35	四国	85	0.1%		播州信金	13	-
2	三井住友	18,542	17.7%	36	伊予	81	0.1%		農林中金	13	-
3	りそな	12,296	11.7%	37	大阪協栄信組	77	0.1%	69	大阪府信連	13	-
4	関西みらい	10,697	10.2%	38	ミレ信組	67	0.1%		十八	13	-
5	大阪シティ信金	6,724	6.4%	39	大阪中河内農協	54	0.1%		SBJ	13	-
6	池田泉州	5,431	5.2%		楽天	54	0.1%	74	中京	12	-
7	大阪信金	4,803	4.6%	41	ジャパンネット	54	0.1%		住信SBIネット	12	-
8	みずほ	4,774	4.5%	42	三井住友信託	52	-		百五	11	-
9	北おおさか信金	3,872	3.7%	43	但馬	50	-	76	静岡	11	-
10	紀陽	2,429	2.3%		きのくに信金	50	-		茨木市農協	11	-
11	尼崎信金	1,929	1.8%	45	愛媛	46	-		日新信金	10	-
12	永和信金	996	0.9%	46	北国	43	-	79	大阪東部農協	10	-
13	京都	979	0.9%	47	中国	41	-		高槻市農協	10	-
14	商工中金	708	0.7%	48	大阪南農協	37	-	82	大分	9	-
15	枚方信金	684	0.7%	49	日本政策金融公庫	34	-		福邦	8	-
16	大阪商工信金	657	0.6%	50	名古屋	31	-		福岡	8	-
17	南都	610	0.6%	51	いずみの農協	30	-	83	奈良信金	8	-
18	京都信金	498	0.5%	52	大阪泉州農協	29	-		中央信組	8	-
19	大阪厚生信金	438	0.4%	53	山陰合同	28	-		全信組連	8	-
20	阿波	388	0.4%		福井	25	-		横浜	8	-
21	大正	316	0.3%	54	三菱UFJ信託	25	-		富山第一	7	-
22	ゆうちょ	287	0.3%	56	大阪府医師信組	24	-		鳥取	7	-
23	近畿産業信組	266	0.3%	57	大阪市農協	22	-	89	兆豊国際商業	7	-
24	北陸	254	0.2%		北河内農協	20	-		新生	7	-
	のぞみ信組	254	0.2%	58	高知	20	-		堺市農協	7	-
26	みなと	251	0.2%		広島	20	-		宮崎	7	-
27	成協信組	178	0.2%	61	大垣共立	19	-		兵庫信金	6	-
28	第三	164	0.2%	62	十六	18	-		日本政策投資	6	-
29	徳島	143	0.1%		近畿労金	18	-		大和信金	6	-
30	香川	135	0.1%	64	大阪北部農協	15	-	95	大阪貯蓄信組	6	-
31	百十四	132	0.1%		西日本シティ	14	-		信金中央金庫	6	-
32	京都中央信金	122	0.1%	65	山口	14	-		鹿児島	6	-
33	大同信組	120	0.1%		トマト	14	-		印度	6	-
34	滋賀	115	0.1%		グリーン大阪農協	14	-		未詳	4,559	4.3

2. 地域別ランキング

地域別では、大阪府下を①大阪市内②大阪北③大阪東④大阪南の4ブロックに分別した。(注1)

① 大阪市内地区

最も社数が多い大阪市内地区に本社を置く企業のメインバンクを見てみると、1位「三菱UFJ銀行」と2位「三井住友銀行」、3位の「りそな銀行」、4位の「関西みらい銀行」、6位「みずほ銀行」など上位勢は前回から社数を減少させるところが目立った。

また一方で、前回調査から5位の「大阪シティ信金」が23社増、7位の「大阪信金」は65社増。8位の「池田泉州銀行」も68社増やし、2年連続で順位を上げ、地元金融機関としての存在感を示した。また、「紀陽銀行」が順位を2つ上げた。

多くの地銀・信金が社数を増やし、シェア拡大への動きを加速させている。信金ではコロナ関連融資を契機にメインバンクが変更されるケースも出ている。

順位	前回順位	金融機関名	社数	構成比(%)
1	(1)	三菱UFJ	10,869	20.9%
2	(2)	三井住友	10,452	20.1%
3	(3)	りそな	6,749	13.0%
4	(4)	関西みらい	4,759	9.2%
5	(5)	大阪シティ信金	3,273	6.3%
6	(6)	みずほ	3,060	5.9%
7	(7)	大阪信金	2,082	4.0%
8	(9)	池田泉州	1,321	2.5%
9	(8)	北おおさか信金	1,282	2.5%
10	(10)	尼崎信金	984	1.9%
11	(11)	永和信金	656	1.3%
12	(14)	紀陽	357	0.7%
12	(12)	大阪商工信金	357	0.7%
14	(13)	商工中金	336	0.6%
15	(15)	大阪厚生信金	255	0.5%
16	(16)	阿波	227	0.4%
17	(17)	みなと	190	0.4%
18	(19)	近畿産業信組	188	0.4%
19	(18)	北陸	184	0.4%
20	-	徳島大正	183	0.4%

② 大阪北地区

大阪北地区では、1位は「北おおさか信金」(2,215社、構成比17.2%)で社数、構成比ともに伸ばし、4年連続首位。2位「三井住友銀行」は社数を維持。3位「三菱UFJ銀行」と4位「りそな銀行」は社数を減少させた。5位の「池田泉州銀行」は社数を伸ばし、シェアも10%を超えた。「尼崎信金」が23社増で順位をひとつ上げた。

9位「京都銀行」、12位「京都信金」、13位「京都中央信金」の京都勢が社数を伸ばし、隣接県の強みを見せた。1月に徳島銀行と大正銀行の合併で誕生した「徳島大正銀行」が20位に入った。

順位	前回順位	金融機関名	社数	構成比(%)
1	(1)	北おおさか信金	2,215	17.2%
2	(2)	三井住友	2,005	15.6%
3	(3)	三菱UFJ	1,827	14.2%
4	(4)	りそな	1,313	10.2%
5	(5)	池田泉州	1,290	10.0%
6	(6)	関西みらい	1,202	9.4%
7	(8)	尼崎信金	482	3.8%
8	(7)	みずほ	464	3.6%
9	(9)	京都	247	1.9%
10	(10)	大阪信金	189	1.5%
11	(11)	大阪シティ信金	129	1.0%
12	(12)	京都信金	111	0.9%
13	(13)	京都中央信金	60	0.5%
14	(14)	商工中金	52	0.4%
15	(15)	ゆうちょ	47	0.4%
16	(16)	みなと	35	0.3%
17	(18)	のぞみ信組	28	0.2%
18	(17)	滋賀	25	0.2%
19	(19)	阿波	22	0.2%
20	-	徳島大正	21	0.2%

③大阪東地区

大阪市内地区に続き企業数が多く、金融激戦区である大阪東地区では、1位「三菱UFJ銀行」、2位「三井住友銀行」で順位に変動はなかったものの、両行とも社数、シェアともに落とした。4位までが社数を減らすなか、5位の「りそな銀行」は社数、シェアともに増加。7位「枚方信金」から10位「池田泉州銀行」の地銀・信金勢も社数を伸ばした。

「南都銀行」「紀陽銀行」「京都信金」「尼崎信金」の近隣県の金融機関も積極的に進出しており、社数を増やしている。メガバンクが中堅・大企業に注力するなか、地銀・信金による地場企業の獲得競争が続いている。

順位	前回順位	金融機関名	社数	構成比 (%)
1	(1)	三菱UFJ	3,082	14.7%
2	(2)	三井住友	2,912	13.9%
3	(3)	関西みらい	2,905	13.9%
4	(4)	大阪シティ信金	2,799	13.4%
5	(5)	りそな	1,966	9.4%
6	(6)	みずほ	847	4.0%
7	(7)	枚方信金	666	3.2%
8	(8)	大阪信金	628	3.0%
9	(9)	京都	559	2.7%
10	(10)	池田泉州	431	2.1%
11	(11)	北おおさか信金	401	1.9%
12	(12)	京都信金	386	1.8%
13	(13)	永和信金	266	1.3%
14	(14)	南都	260	1.2%
15	(15)	大阪商工信金	245	1.2%
16	(16)	尼崎信金	206	1.0%
17	(17)	紀陽	188	0.9%
18	-	徳島大正	136	0.6%
19	(18)	商工中金	131	0.6%
20	(20)	大阪厚生信金	114	0.5%

④大阪南地区

唯一、金融機関の本店がない大阪南地区では、1位の「三井住友銀行」が前回は13社減の2,977社でシェア0.1ポイント減。一方で、「池田泉州銀行」は34社増加させ、2位に浮上した。地区別で地方銀行が2位となったのは調査開始以来初。「三菱UFJ銀行」は6社減で3位となった。

4位の「りそな銀行」、5位「大阪信金」、6位「紀陽銀行」は社数を増加させた。一方で7位の「関西みらい銀行」から9位の「みずほ銀行」は社数を落とし、上位10行で社数増が5行、社数減が5行と明暗が分かれた。

また、前回16位の大正銀行と19位の徳島銀行が合併した「徳島大正銀行」は14位にランクアップした。

順位	前回順位	金融機関名	社数	構成比 (%)
1	(1)	三井住友	2,977	15.5%
2	(3)	池田泉州	2,527	13.2%
3	(2)	三菱UFJ	2,490	13.0%
4	(4)	りそな	2,260	11.8%
5	(5)	大阪信金	2,018	10.5%
6	(6)	紀陽	1,899	9.9%
7	(7)	関西みらい	1,751	9.1%
8	(8)	大阪シティ信金	530	2.8%
9	(9)	みずほ	359	1.9%
10	(10)	尼崎信金	318	1.7%
11	(11)	南都	205	1.1%
12	(12)	商工中金	176	0.9%
13	(13)	成協信組	111	0.6%
14	-	徳島大正	110	0.6%
15	(14)	阿波	75	0.4%
16	(15)	第三	63	0.3%
17	(18)	永和信金	58	0.3%
18	(17)	大阪厚生信金	56	0.3%
19	(20)	ゆうちょ	56	0.3%
20	-	大阪商工信金	51	0.3%

3. 業種別ランキング

①建設業

建設業では、1位から10位までは前回調査と順位に変化はなかったが、5行が社数を伸ばし、5行が社数を減らす結果となった。

「三井住友銀行」「三菱UFJ銀行」「関西みらい銀行」は順位を維持したものの、社数を減らした。一方で4位の「りそな銀行」から8位の「大阪信金」は社数を伸ばした。特に8位「大阪信金」は前回調査から40社増で7位に肉薄した。

順位	前回順位	金融機関名	社数	構成比(%)
1	(1)	三井住友	4,365	15.8%
2	(2)	三菱UFJ	4,142	14.9%
3	(3)	関西みらい	4,081	14.7%
4	(4)	りそな	3,135	11.3%
5	(5)	大阪シティ信金	1,930	7.0%
6	(6)	池田泉州	1,870	6.7%
7	(7)	北おおさか信金	1,795	6.5%
8	(8)	大阪信金	1,793	6.5%
9	(9)	紀陽	763	2.8%
10	(10)	みずほ	727	2.6%

②製造業

製造業では、1位から10位までは前回調査と順位に変化はなかった。前回調査では8行が社数を減らしていたが、今年も1位から7位までの7行が社数を減らす結果となった。特に上位2行は社数、シェアともに減少させた。10位の「紀陽銀行」は上位では唯一2年連続で社数、シェアともに伸ばした。

順位	前回順位	金融機関名	社数	構成比(%)
1	(1)	三菱UFJ	2,445	16.5%
2	(2)	三井住友	2,412	16.3%
3	(3)	大阪シティ信金	1,900	12.8%
4	(4)	りそな	1,500	10.1%
5	(5)	関西みらい	1,210	8.2%
6	(6)	みずほ	765	5.2%
7	(7)	大阪信金	755	5.1%
8	(8)	池田泉州	710	4.8%
9	(9)	北おおさか信金	501	3.4%
10	(10)	紀陽	414	2.8%

③卸売業

卸売業では、トップの「三菱UFJ銀行」が97社減と2年で199社を減らし、4000社を割り込んだ。2位の「三井住友銀行」も75社減。1位から6位までの6行と、9位の「北おおさか信金」が社数を減らす結果となった。

一方で社数を増加させた3行も増加幅は10社以下と微増にとどまり、近年、卸売業のメインバンクが分散化している。

順位	前回順位	金融機関名	社数	構成比(%)
1	(1)	三菱UFJ	3,977	21.8%
2	(2)	三井住友	3,564	19.5%
3	(3)	りそな	2,323	12.7%
4	(4)	関西みらい	1,500	8.2%
5	(5)	みずほ	1,297	7.1%
6	(6)	大阪シティ信金	1,219	6.7%
7	(7)	池田泉州	819	4.5%
8	(8)	大阪信金	659	3.6%
9	(9)	北おおさか信金	415	2.3%
10	(10)	尼崎信金	384	2.1%

④小売業

コロナ禍で最も大きな被害を受けた業種の1つである小売業では、前回調査から上位10行の順位に変化はなかった。

1位の「三井住友銀行」から4位の「関西みらい銀行」までの社数は減少した。

5位「池田泉州銀行」は18社増のシェア0.4ポイント増、7位「大阪シティ信金」と8位「大阪信金」は社数、シェアともに伸ばした。

順位	前回順位	金融機関名	社数	構成比(%)
1	(1)	三井住友	1,420	18.3%
2	(2)	三菱UFJ	1,332	17.2%
3	(3)	りそな	902	11.7%
4	(4)	関西みらい	847	10.9%
5	(5)	池田泉州	562	7.3%
6	(6)	みずほ	401	5.2%
7	(7)	大阪シティ信金	367	4.7%
8	(8)	大阪信金	363	4.7%
9	(9)	北おおさか信金	272	3.5%
10	(10)	紀陽	254	3.3%

⑤不動産業

不動産業では、1位は「三井住友銀行」で調査開始当初より12回連続首位だが、前回から14社減らし、シェアを落とした。

2位の「三菱UFJ銀行」から9位の「大阪シティ信金」までは社数を増加させ、積極的な姿勢が見られた。特に5位の「大阪信金」は、23社増でシェアを0.2ポイント伸ばした。10位の「紀陽銀行」は前回から横ばい。

順位	前回順位	金融機関名	社数	構成比(%)
1	(1)	三井住友	1,499	17.4%
2	(2)	三菱UFJ	1,398	16.2%
3	(3)	関西みらい	1,023	11.8%
4	(4)	りそな	980	11.3%
5	(5)	大阪信金	415	4.8%
6	(6)	みずほ	388	4.5%
7	(7)	池田泉州	339	3.9%
8	(8)	北おおさか信金	326	3.8%
9	(9)	大阪シティ信金	316	3.7%
10	(10)	紀陽	154	1.8%

⑥運輸・通信業

業界別で最も社数が少ない運輸・通信業では、上位3行は社数、シェアを下げた。特に2位の「三菱UFJ銀行」は24社減で0.6ポイント下げた。

4位の「関西みらい銀行」は15社増で最も社数を増やし、7位の「池田泉州銀行」は9社増で順位をひとつ上げた。

順位	前回順位	金融機関名	社数	構成比(%)
1	(1)	三井住友	790	20.2%
2	(2)	三菱UFJ	627	16.1%
3	(3)	りそな	468	12.0%
4	(4)	関西みらい	349	8.9%
5	(5)	大阪シティ信金	262	6.7%
6	(6)	大阪信金	235	6.0%
7	(8)	池田泉州	192	4.9%
8	(7)	みずほ	185	4.7%
9	(9)	北おおさか信金	135	3.5%
10	(10)	商工中金	120	3.1%

⑦サービス

小売業とともにコロナ禍の影響を大きく受けているサービス業では、「三菱UFJ銀行」が社数を69社減らしたものの1位を堅持。2位の「三井住友銀行」も21社減らした。

3位「りそな銀行」から10位「紀陽銀行」までの8行はすべて社数を伸ばした。特に5位の「池田泉州銀行」は、51社増と大きく伸ばした。

順位	前回順位	金融機関名	社数	構成比(%)
1	(1)	三菱UFJ	4,147	18.1%
2	(2)	三井住友	4,122	18.0%
3	(3)	りそな	2,892	12.6%
4	(4)	関西みらい	1,554	6.8%
5	(5)	池田泉州	1,042	4.5%
6	(6)	みずほ	904	3.9%
7	(7)	大阪シティ信金	723	3.2%
8	(8)	大阪信金	684	3.0%
9	(9)	北おおさか信金	456	2.0%
10	(10)	紀陽	415	1.8%

4. まとめ

前回の調査で、「三菱UFJ銀行」が2年ぶりに首位に返り咲いたが、今回の調査では「三井住友銀行」が再度首位を奪還。上位2行は3位の「りそな銀行」に6000社も差をつけており、圧倒的な強さを誇っている。

しかし、上位2行のシェア、社数は年々減少傾向にあり、特に今年はコロナ禍のなか、新型コロナウイルス関連融資などをきっかけに地銀や信金が社数を伸ばしている。また、低金利化において他地域の金融機関進出によりさらに競争は厳しさを増している。

2019年4月には「関西みらい銀行」が誕生。2020年1月には前回調査で21位「大正銀行」と29位「徳島銀行」が合併し「徳島大正銀行」となり、今回19位にランクインしている。昨今、地銀再編圧力が強まっているが、近畿では過去には紀陽銀行（2006年和歌山銀行と合併）や池田泉州銀行（2010年池田銀行と泉州銀行が合併）など、すでに合併を経験している地銀が多い。近畿に本店を置く第二地銀は「みなと銀行」のみで関西みらいフィナンシャルグループ傘下に入っており、すでに再編は進んでいるという見方もある。

その一方で近年は、少子高齢化による地域人口の減少や低金利政策の長期化など収益を上げづらい環境が続いている。メガバンクはすでに組織変更や店舗集約、海外進出などを積極的に行っており、地域金融機関は一步遅れているともいえる。今後は顧客から選ばれるために地域金融機関が独自色を打ち出す必要が増すこととなるだろう。

（*注1）

大阪府下の地域別は、①大阪市内地区（大阪市内24区）②大阪北地区（豊中市、池田市、吹田市、高槻市、茨木市、箕面市、摂津市、三島郡、豊能郡）③大阪東地区（守口市、枚方市、八尾市、寝屋川市、大東市、柏原市、門真市、東大阪市、四條畷市、交野市）④大阪南地区（堺市内7区、岸和田市、泉大津市、貝塚市、泉佐野市、富田林市、河内長野市、松原市、和泉市、羽曳野市、高石市、藤井寺市、泉南市、大阪狭山市、阪南市、泉北郡、泉南郡、南河内郡）の4ブロックに分別。

【内容に関する問い合わせ先】

株式会社帝国データバンク 大阪支社 担当：白濱
TEL 06-6441-3100 FAX 06-6445-9532

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。

当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。

著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。